

京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調査書

団体名：与謝野町

1. 平成23年度 行財政改革推進計画について【総括表】

計画の概要等	背景	昨今の少子高齢化の急速な進行のなか、平成15年のいわゆる「三位一体の改革」により、地方交付税が大きく削減されるなど、財政力の脆弱な自治体では財源の確保が困難な状況が続いている。本町の財政も交付税等に大きく依存しており、それらの増減に左右されない持続可能で効率的な行財政運営への変換を迫られている。			
	必要性	「三位一体の改革」等の影響により、基礎自治体としての体力強化を余儀なくされた加悦町・岩滝町・野田川町は平成18年に合併し、与謝野町として新たに出発することとなった。合併による財政面での優遇はあるものの合併当初の経常収支比率は96%と財政面での余力がない中で新町がスタートした。今後一般財源の大幅な減少が見込まれる中、類似団体を上回る行政規模を適正規模に縮減し、指定管理者制度の活用等により効率的な行財政システムを確立することによって、平成19年度に策定した総合計画の実現を目指す。			
	概要	合併後15年間の合併調整期間の中で、特に平成20～24年度を行政改革期間（随時延長）と位置づけ「20億円の行政改革効果」と「経常収支比率の低減」を目指し、徴収体制の強化による税収の増、職員数の削減、事業精査・施設の長寿命化対策による地方債発行の抑制、公共施設の統廃合・民間委託などを行う。			
	効果	本計画の実行により経常経費の削減・地方債残高の減少等、財政負担が軽減され、持続的・安定的な行財政運営が図られる。			
平成23年度行財政改革推進計画に伴う事業実績による行革効果について					
事業分類	事業名・実施項目	改革項目	取組実績の概要	主な実績数値（出来高数値等）	行革効果（単位：人・千円等）
小規模市町村支援	町道維持補修事業	投資改革	町道長寿命化のため適切な維持補修を行った。	町道の修繕・維持補修を行い整備事業費が5力年で96,134千円効果額を計上する見込み。	96,134千円
	廃棄物処理施設補修事業	投資改革	廃棄物処理施設長寿命化のため適切な維持補修を行った。	廃棄物処理施設の修繕・維持補修を行い、平成30年度までで整備事業費が15,000千円減少し、効果額として6,690千円計上する見込み。	6,690千円
	町営住宅維持補修事業	投資改革	町営住宅長寿命化のため適切な維持補修を行った。	町営住宅の修繕を毎年行うことで大規模改修等の整備事業費の軽減が図られ、効果額として11,887千円計上する見込み。	11,887千円
広域連携事業支援	宮津与謝広域ごみ施設整備事業	業務改革	宮津市、伊根町と連携し宮津与謝地区の新ごみ処理施設建設の事務事業を行った。	新ごみ処理施設整備事務局の運営負担金 200千円	1市2町の建設事業費全体で2,321,000千円の効果
	丹後地域魅力発信事業	業務改革	宮津市、京丹後市と連携し「特産品ショップ ホット丹後」の運営を行った。	与謝野町負担金300千円で、与謝野町単独出店と比べ大幅な経費節減に繋がった。	5,600千円
緊急公債費支援	公債費抑制対策（一般会計）	投資改革	合併から5年度経過した平成23年度に公債費抑制計画を策定し、後年度の公債費抑制を図った。	H23実質公債費比率16.4%	H22比 0.1%

（記載要領）

- 記載欄が不足する場合は、適宜追加すること。
- 「主な実績数値（出来高数値等）」、「行革効果」については、出来るかぎり数値化した客観的な指標を記載すること。